

福田康夫日本国政府代表ステートメント

（「世界人道サミット」首脳級会合）

議長,

今日の、未曾有の人道危機を目の当たりにするとき、ここイスタンブールに集まった、われわれ各国の指導者が国連を中心に、自ら動き、人類の未来への責任を果たさんとするほかに、解決の道はないと確信します。

日本は、「世界人道サミット」の直後、26日から2日間、G7伊勢志摩サミットを主催し、中東の難民問題を含む人道危機についても意見を交わします。この会議の内容がG7サミットに反映されることを確信しています。

日本は、人道危機の根本原因に思いを致した具体的な貢献策を、この機会に固めました。

一例を挙げれば、中東・北アフリカにおいて寛容で安定した社会を取り戻すことを願い、難民の方々への人道支援、2万人の人材育成、医療、保健、教育支援など、本年からの3年間で、60億ドルの支援を行ってまいります。

この支援は、「だれ一人、取り残すことなく」行っていくための、日本国民からの連帯の証であり、日本が長年訴えてきた「人間の安全保障」という方針の実行です。

日本にとって、遠く離れた中東・北アフリカにおける災厄であっても、同じ人類同胞として、我が事と考えます。それは、様々な問題が今もなお北東アジアにおいても存在するからであります。しかし、我が国は紛争を引き起こしません。平和国家としての歩みを続け、国際協調主義に基づく積極的平和主義を実践していく。世界の平和と発展のために全力で取り組みます。